

昭和34(1959)年9月26日 伊勢湾台風(台風第15号)

概況

昭和34年9月20日マーシャル諸島で発生した熱帯低気圧は、21日21時に台風第15号となった。その後、超大型の猛烈な台風に発達し北上を続け、26日18時すぎに紀伊半島の南端に上陸した。紀伊半島をほぼ縦断し、愛知県には26日21時頃最も接近し、岐阜県西部から富山県を通り日本海へ抜けた。台風は超大型の勢力を保ち、東海地方の西を北上したため、特に伊勢湾周辺では、最大風速が南寄りで40 m/s以上の暴風となり、記録的な高潮(名古屋港で21時35分に3.89m)が起こった。また、三河山間部では広い範囲で200mm以上の大雨となった。このため、愛知県では高潮・暴風・大雨等により、他に類をみない大災害となった。特に死者は台風被害としては未曾有の多さとなり、住宅被害も莫大であった。

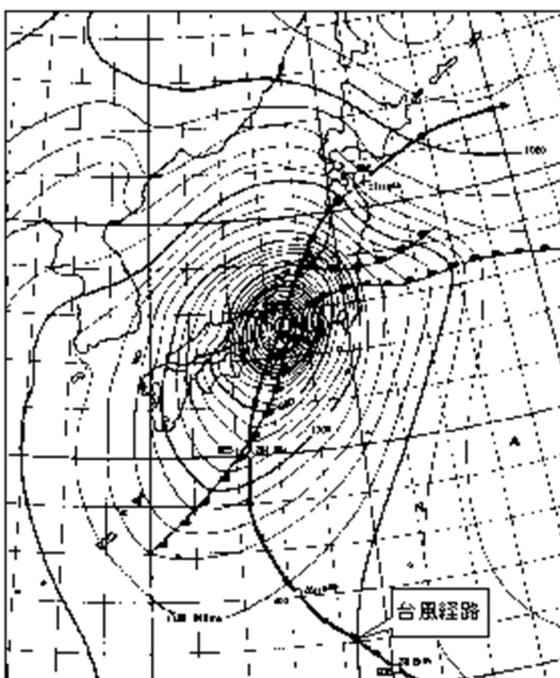
気象官署観測記録(昭和34年9月26日)

地点名	最低気圧	同起時	最大風速 (10分間平均)	同起時	最大瞬間風速	同起時
名古屋	958.2 hPa	26日 21時27分	南南東 37.0m/s	26日 22時00分	南南東 45.7m/s	26日 21時25分
伊良湖	964.6 hPa	26日 20時20分	南 45.4m/s	26日 20時45分	南 55.3m/s	26日 21時21分

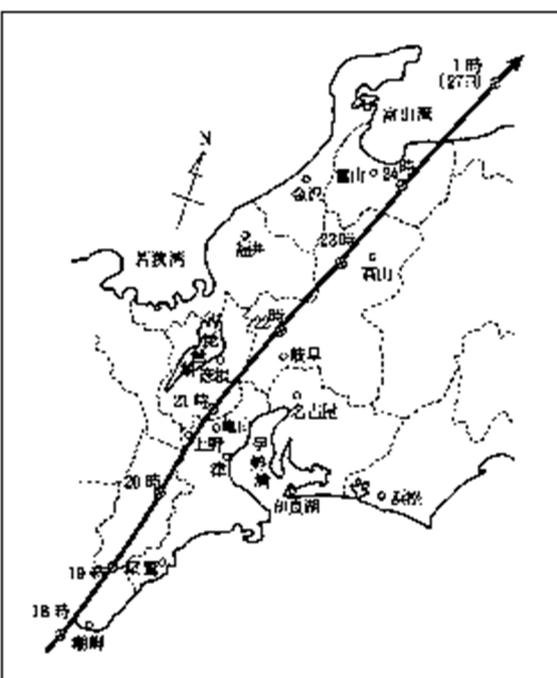
日最低海面気圧、日最大風速、日最大瞬間風速ともに、台風が愛知県に最も接近した20時から22時の間で極値を観測している。また、上記表の観測値は伊良湖の日最低海面気圧(第3位)を除いて、観測開始以来(名古屋:1891年、伊良湖:1947年)の極値となっている。なお、気象庁技術報告第7号(1961)等では、名古屋「958.5hPa」、伊良湖「964.9hPa」で記載されているが、1964年1月1日に全国的な補正が行われたため、名古屋「958.2hPa」、伊良湖「964.6hPa」とした。

愛知県被害状況(愛知県:伊勢湾台風災害復興誌から)

人的被害	死者(人)	3,168	公共土木 施設被害	河川(箇所)	880
	行方不明(人)	92		海岸(箇所)	251
	負傷者(人)	59,045		砂防(箇所)	261
住家被害	全壊(戸)	23,334		道路(箇所)	1,132
	半壊(戸)	97,049		橋梁(箇所)	170
	流失(戸)	3,194	農業被害	田畑流失埋没(ha)	2,573
	床上浸水(戸)	53,560		田畑冠水(ha)	36,374
	床下浸水(戸)	62,831	その他	船舶流失沈没(隻)	777
非住家(戸)	115,600	鉄道不通(日)		101	



地上天気図(昭和34年9月26日21時)
この時点で中心気圧は940hPaであった

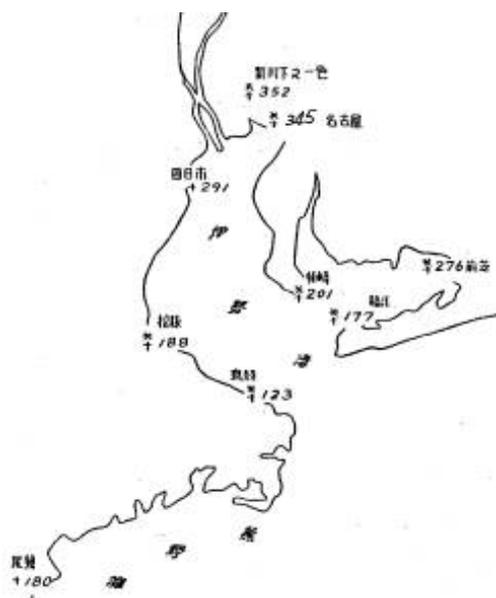


愛知県に最も接近した時の台風経路図
(昭和34年9月26日)
愛知県には26日21時頃最も接近した

伊勢湾台風時の高潮

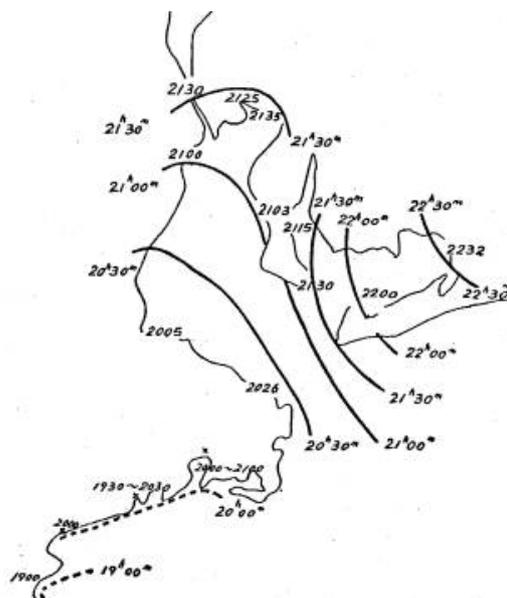
下図に「伊勢湾付近の最高気象潮位」と、「伊勢湾付近の最高潮位の起時」を示す。最高気象潮位をみると、湾口付近では2m弱であるが、湾奥では3.5mに達する高い値を示した。これは、気圧の下降と共に南よりの風による吹き寄せの効果が大きかったものと思われる。また、最高潮位の時刻をみると、風向の変化とよく対応している。先ず南東の風をまともにうけた三重県中部海岸では20時過ぎから20時30分頃と早く、次に南南東の風をうけた伊勢湾の奥で21時30分頃、三河湾の奥では最も遅く、風が南南西に変わった22時30分頃となっている。

※ 潮位資料は、名古屋港および鳥羽は気象庁、その他は県所属のものである。



伊勢湾付近の最高気象潮位（昭和34年9月26日）

* 印は名古屋地方気象台で調査した値



伊勢湾付近の最高潮位の起時(昭和34年9月26日)

名古屋港の検潮記録

台風接近時、南側に開けた伊勢湾では、南からの暴風による吹き寄せ効果と気圧の下降による海面の吸い上げ効果等が重なり、記録的な高潮が発生した。

